

## 中間評価を受けて

平成 22 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」に 5 年計画として採択された奈良女子大学の課題『伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点』は、平成 23 年度より科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として継続実施されている。事業実施 3 年目にあたる平成 24 年度に、文部科学省（科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究開発評価部会 女性研究者支援システム改革評価作業部会）による中間評価を受けたので、その概要を報告する。

### 1. 中間評価ヒアリングの概要

中間評価のヒアリングは、平成 24 年 10 月 23 日（火）に、科学技術振興機構（JST）サイエンスプラザにおいて、約 30 分間（発表 15 分）行われた。本学の出席者は、野口誠之学長（総括責任者）、富崎松代理事・副学長（女性研究者養成システム改革推進本部長）及び塚原敬一教授（同副本部長）であった。また、事務担当者として木下和之学務課課長補佐が同行した。

ヒアリングに先立ち、本事業の成果報告書の最終版（本文 18 頁、参考図表（公開）13 頁、付録（非公開）48 頁、計 79 頁）を 8 月 20 日（月）に提出した（成果報告書 Web Site: [http://www.jst.go.jp/shincho/program/kadai/woman\\_kasoku\\_h22\\_07.html](http://www.jst.go.jp/shincho/program/kadai/woman_kasoku_h22_07.html)）。また、この成果報告書の提出に先立ち、5 月 25 日（金）に、本学において、JST 科学技術システム改革事業プログラム主管山村康子氏及び科学技術システム改革推進室主任調査官千葉胤和氏による事前調査が行われ、富崎松代理事・副学長、塚原敬一教授及び木下和之学務課課長補佐が出席した。

ヒアリングでは、先ず野口学長が、本事業の概要、特に所期の計画に定めた目標の達成度を中心に説明し、続いて塚原副本部長が、取組内容・システム改革、実施体制及び継続性・発展性について具体的に説明した。その後、それぞれの項目についての質疑応答が行われた。ヒアリングの質疑応答では、本学の事業が高い評価を受けているという印象であった。

### 2. 中間評価結果

平成25年1月24日（木）に公表された、中間評価結果を資料1に示す。

進捗状況、取組の内容、システム改革、実施体制、今後の進め方の5項目ともに「a」であり、総合評価は「A」（所期の計画と同等の取組が行われている）であった。いずれの項目も「評価できる」という内容であり、今後、農学系の所期計画の達成が期待されている。

### 3. 中間評価結果への対応と今後の課題

#### 1) 進捗状況

理学系及び工学系ともに、現在の女性教員採用計画を遂行することで目標を達成できる見込みである。一方、「従来から女性研究者比率の高かった農学系分野でも、女性研究者比率の目標達成（75.0%）を期待する」というコメントに対しては、今後2年間の採用努力が急務である。

## 2) 取組の内容

この項目は、高い評価を受けており、今後も継続して実施する予定である。「今後は、独自養成女性研究者の採用を期待する」というコメントに対しては、本学の第2期中期計画に「女性教員比率を30%以上にする」と定めており、できるだけ優秀な女性研究者の採用を目指す。

## 3) システム改革

この項目も高い評価を受けており、今後も継続して実施する予定である。「今後、女子大学ならではの取組を実施し、他機関へ波及効果を及ぼすことを期待する」というコメントに対しては、これまでに本学が取り組んできた女性研究者共助システム等を活用することにより、他機関のロールモデルとなることが期待される。

## 4) 実施体制

この項目も高い評価を受けているが、平成24年12月、「男女共同参画推進室」を「男女共同参画推進機構」に改組した。平成25年度に向けて男女共同参画推進活動の更なる強化を図る予定である。

## 5) 今後の進め方

所期計画及び事業実施期間終了後5年間の目標設定は、意欲的であると評価されているので、今後も学長のリーダーシップの下、小規模大学のメリットを生かして、優秀な理工農系女性研究者を養成する予定である。

(中間評価)

## 伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：奈良女子大学（総括責任者：野口 誠之）

### プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画（平成 22 年度～26 年度）。( ) 内は女性教員採用比率

理学系：4(80.0%), 1(100%), 0(0%), 2(66.7%), 0(0%)

工学系：1(100%), 0(0%), 1(100%), 0(0%), 0(0%)

本学は農学系に比べ理工系の女性研究者比率が低い。本申請では比率の低い理学系と工学系に関して重点的に採用を計画した。極めて高い採用比率をポジティブアクションで実施することにより、加速的に女性教員比率を高め、当該課題対象分野（理工農系）で3年度目には 27.5%、5 年度目には 28.4%という高い女性教員比率を達成する。

(2) 女性研究者養成のための取組内容 採用した新規養成・独自養成女性研究者、既在籍女性研究者に対し、1)若手研究者サポートシステム、2)若手女性研究者養成システム、3)研究スキルアップシステムを適用し、メンター制度などにより教員の協力体制のもとに女性研究者を養成する。

(3) 期待される効果 本申請課題の推進により、本学の理工系女性教員比率が加速的に伸び、20%以上を安定的に維持できるようになり、全学の比率も 30%を超える。また3つの支援システムにより次世代を含めた女性研究者の増加と研究の質の向上が大いに期待できる。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	取組の内容	システム改革	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

定年退職者及び転出者の補充ポストを用いて計画的に教員の女性限定公募を実施し、新規養成女性研究者の採用、女性研究者割合の向上など所期の目標を十分に達成している。

教員の女性限定公募においては、公募内容及び公募方式を工夫し応募者の増加を図り、優秀な女性研究者の採用に繋げており評価できる。高い目標を掲げ取組を進めており、今後は学長裁量によるプロモーション制度の運用を進め、女性研究者の上位職階への昇任を促進することを期待する。

・**進捗状況**：新規養成女性研究者数、女性研究者比率とも、理学系、工学系分野で目標を達成しており評価できる。従来から女性研究者比率の高かった農学系分野でも、女性研究者比率の目標達成を期待する。

・**取組の内容**：分野に応じ公募内容を工夫し、教員の女性限定公募を実施することにより、優れた女性研究者の採用に繋げている。小規模女子大学における計画的な女性研究者採用を進めており評価できる。今後は、独自養成女性研究者の採用を期待する。

・**システム改革**：メンターチームによるメンタリング、学長裁量によるプロモーション制度の導入等、特色的な女性研究者養成システムを構築しており評価できる。今後、女子大学ならではの取組を実施し、他機関へ波及効果を及ぼすことを期待する。

・**実施体制**：学長のリーダーシップの下、全学的な実施体制が構築されており、計画的にシステム改革が実施されている点が評価できる。

・**今後の進め方**：順調に所期の計画を推進しており、事業実施期間終了後 5 年間の目標設定も意欲的であり、更なる女性研究者の採用、上位職への登用が期待できる。